



### てんまつ ホワイトドルフィン号頼末

くなぜ復活した尾道航路が全線廃止に至ったのか？

尾道～弓削航路の復活から廃止まで

【注：本表におけるNPOとは「特定非営利活動法人頼れるふるさとネット」を指す】

- (弓削町)  
平成13年4月25日 クルージング：一般旅客定期航路尾道弓削島航路開始。  
(上島町)  
平成22年11月 瀬戸内クルージング藤井社長が、土生港弓削港区間航路廃止を表明。  
平成22年12月1日 クルージング：上島町に尾道弓削航路の一部廃止を通告。(総務課長)  
同日弓削商船高専にも通告。  
この年を境に尾道弓削航路の収支が赤字に逆転。しかし赤字航路と成るも同社保有の他航路の運航益を弓削航路に振り向け運航をつづける。  
平成23年1月19日 上島架橋航路関係者連絡協議会：クルージングの弓削～土生港航路廃止計画を承認。上村町長は存続へ話し合いを続けたいとコメント。クルージングは町民の足は守りたい気持ちはあるが橋には勝てない。廃止時期は決めていないので利用者の声を踏まえて熟慮したいとコメント。(愛媛新聞 2011/1/20)  
平成23年1月21日 上島町臨時議会：濱田高嘉議員：尾道航路存続に向けての対応について質問。上村町長答弁：  
①一部区間廃止については何も聞いていない。  
②立石港～弓削港への寄港を止めたら経営が成り立たず、困るのは船会社。  
③社長とは話が通じず、脅しではないのか。  
④挨拶に来るべきは船会社の方だ。と答弁。  
これに対して濱田高嘉議員：  
①については、既に会社は町に通告している。  
②は船会社を運営するトップの責任と判断で一部区間廃止を正式な「連絡協議会」で表明、承認された。廃止の意向を伝えられ、航路存続を要望するか、しないかの態度を明らかにするのは上島町の方である。10年近く定期航路として運航してきた船会社に対する失礼千万な発言だ。と反論。  
上島町議会：議員協議会全会一致で、議会の総意として上村町長に航路存続の要望書の提出することを決める。  
平成23年1月31日 上島町議会：理事者に航路存続のため積極的な取り組みをするよう要望書を提出。しかしその後の理事者の具体的な動きは無し。  
平成23年2月7日 クルージング：藤井専務が上村町長と面会。弓削～立石区間航路廃止を伝え、航路存続をしたい気はあるが、するとなれば年間1800万円必要で会社も体力的に厳しいと伝える。町長はそんな金が無処にあるのかと、経費の根拠を示す資料の提出も求めず、今後のことについても話し合われず。  
平成23年2月17日 NPO：クルージングから会談内容を聞き、町長には取り組む気は無いと判断。  
平成23年2月17日 弓削高齢女性グループ：尾道便存続の請願署名集めを開始。  
平成23年3月中旬 弓削高齢女性グループ：837名の署名を添え航路存続請願書を町に提出。  
平成23年4月15日 弓削高齢女性グループ：代表5名、上村町長に呼ばれる。  
平成23年4月18日 クルージング：上島町生名島立石港を終着港とし、弓削立石間航路を廃止。  
平成23年4月30日 弓削高齢者グループ：航路廃止後、代表5名、再度町長に呼ばれる。5名はバス便の充実等を要請。  
平成23年6月6日 NPO：尾道便の使い勝手の悪さをしばしば耳にし、全線廃止の噂もあるところから、同航路に関するクルージングの真意を確かめることとする。  
平成23年6月中旬 NPO：瀬戸内クルージング本社訪問、立石弓削区間復活の意志の有無を打診。全線廃止をしたいが、今まで公共交通を担ってきた責任上、町民の希望が真摯であり、かつ復帰のための支援条件が折り合えば可能との回答を得る。  
平成23年7月25日 NPO：内部協議で瀬戸内クルージング航路維持の為の支援をすることを内定。  
平成23年8月7日 NPO：クルージングと廃止されている立石弓削区間復活に関する具体的支援方法について意見交換。NPOから愛媛県への交付金返還の肩代わりを申し入れ、クルージングは受諾の意向を示す。  
平成23年8月8日

天高く五月の鯉のふきながち口先ばかりではあわたしは無し

先月号は回覧板に関する官民の勘違いについて書いた。今月号は、上村町長の尾道航路存続についての勘違いについて。

起の巻 五月の鯉の吹き流し  
昨年9月復活した弓削尾道直  
行便ホワイトドルフィン号。  
平成13年就航以来、弓削・  
佐島・生名、魚島、岩城、そし  
て因島の人々の本土への足とし  
て働いてきた。  
承の巻 弓削尾道航路転末  
平成23年2月、佐島・生名  
間に生名橋が完成するのをにら  
み航路業者(瀬戸内クルージン  
グ)は、前年12月、上島町に  
弓削・立石区間航路廃止を通知。  
平成23年1月19日、上島  
架橋航路関係者連絡協議会(瀬  
戸内クルージング、家老渡フェ  
リー汽船、土生商船、芸予汽船、  
岩城汽船、愛媛県、上島町、国  
交省中四国運輸局出先機関で構  
成)の承認を得、同年4月末を  
もって弓削・立石航路を廃止。  
それから5ヶ月後の昨年9月  
25日、尾道航路ホワイトドル  
フィン号は町民の歓呼に迎えら  
れ再び弓削の港に姿を現した。  
さらにあれから半年。復活し  
た弓削尾道航路は再び廃止とな  
る。そこに至った経緯を町民の  
皆さんには時系列を辿って正し  
く知っていただきたい。残念な  
がらホワイトドルフィンへの挽  
歌になってしまったが・・・。  
上島町民の要望に答え運航し  
てきた尾道弓削直行便。それが  
一人の町長の、多分作爲的な勘  
違いによって消滅する。(裏へ)

### 青木喜代子

嫌な季節が来た。  
誰にでも苦手な物のひとつや  
ふたつはあると思う。一昨日は  
掃除中に、昨日は壁にベタッ  
何かって？  
糸を出して巣を作る、八本足  
の、宇にするのもおぞましい。  
ある夏は、理由は忘れたが夫

に一匹あたり手間賃を払ってい  
た。「キヤア出たあ」の私の叫び  
に「どれ」と夫。「今日のは大き  
いから少し色をつけてもらわん  
と」と、ハエタキを振りながら  
ら笑っている。「わかった。三千  
円!」と言って私は寝室に逃げ  
込む。  
「僕はこんな殺生をして、きつ  
と地獄に落ちる・・・。」としお  
らしいことを言うから「大丈夫。  
人助けしてるんだから極楽へ行  
ける」と私。そんなことを言い  
ながら夫はひと夏で荒稼ぎした  
こんな事もあった。配達の中  
中で足首を何かが這った気がし  
た。また空ビンについていたゴ  
キブリだろ!と。出た!。ハン  
ドルの下に!。あの時はかりは  
本当に気が狂いそうだった。車  
を止めるわけにもいかず、オネ



エの様に小指とクスリ指を立て  
てハンドルを握り、やっとの思  
いで車を止めた。母の友人が  
いて話を話して「嘯みつくわけじ  
やなし。ほれ、おらんようにな  
ったから大丈夫」と、いらぬこ  
とに行方不明にしてくれた。  
半泣きで家に帰ってからの大  
騒ぎはご想像におまかせしよ  
う。六月に夫婦同伴の泊旅行が  
ある。毎年ホイホイについて行  
てるが、今回は二年前と同じ行  
程なのでホイホイという気には  
ならない。でも夏の夜のひとり  
もこわい。あゝどうしよう。  
青木倒すに刃物は要らぬ。×  
×の四、五匹もおればよい?。  
いえ、いえ、ころあいのが一匹  
で充分おとなしくなりますよ。

平成 23 年 8 月 17 日  
 平成 23 年 9 月 16 日  
 平成 23 年 9 月 16 日  
 平成 23 年 9 月 25 日  
 平成 23 年 9 月 26 日  
 平成 23 年 9 月 30 日  
 平成 23 年 10 月 2 日  
 平成 23 年 10 月 28 日  
 平成 23 年 11 月 4 日  
 平成 23 年 11 月 15 日  
 平成 23 年 11 月 18 日  
 平成 23 年 12 月 1 日  
 平成 23 年 12 月 1 日  
 平成 23 年 9 月下旬  
 平成 23 年 12 月 5 日  
 平成 24 年 1 月 19 日  
 平成 24 年 2 月 11 日  
 平成 24 年 3 月 1 日  
 平成 24 年 3 月 9 日  
 平成 24 年 3 月 22 日  
 平成 24 年 3 月 23 日  
 平成 24 年 3 月 28 日  
 平成 24 年 4 月 8 日  
 平成 24 年 4 月 10 日  
 平成 24 年 4 月 21 日  
 平成 24 年 4 月 23 日  
 平成 24 年 4 月 25 日  
 平成 24 年 4 月 27 日  
 平成 24 年 4 月 27 日  
 平成 24 年 4 月 27 日  
 平成 24 年 5 月 1 日

NPO：クルージングへ 362 名の署名を添えて復活嘆願。愛媛県、広島県の  
 国交省の出先機関に向き、迅速なる復活審査を嘆願する。  
 NPO：クルージングへの事業支援金支給として 410 万 7461 円を愛媛県に肩  
 代わり返還することを正式決定。  
 NPO：返還交付金を愛媛県に肩代わり納入。  
 弓削生名間航路復活。異例の早さで尾道までの全線復活成る。  
 町内 8 団体にて弓削尾道航路復活後の取り組みについて協議。  
 航路存続連のための連絡協議会をたちあげることを申し合わせる。  
 町内 5 団体で尾道弓削直行便航路存続連絡協議会設立を了承。  
 尾道弓削直行便存続連絡協議会（航路連絡協）発足。  
 航路連絡協：第 1 回役員会。具体的活動方針決定。行政からの支援策も必要  
 と、請願書と署名簿を提出することを決定。  
 航路連絡協：上村町長に航路維持の請願書と署名 1200 名を提出趣旨説明。  
 マスコミ同席取材。  
 機関紙ホワイトドルフィン 1 号発行。請願書提出時の状況を町民に報告。  
 航路連絡協：尾道航路利用の観光集客ポスターを発注 200 枚。  
 航路連絡協：ホワイトドルフィン号 No.2 発行。活動への町民への参加と活  
 動資金募金依頼。募金金額 13, 8000 円（一般、共働 NPO 及び商店からの  
 寄付）  
 NPO：弓削尾道航路利用者アンケートを 1 ヶ月実施。意見を集約して町民  
 ドルージングに公開、とり組める改善に取り組むよう進言。  
 NPO：写真家村上宏治氏の協力を得て本土からの集客案を練る。  
 航路連絡協：集客ポスター完成。尾道方面、関東、関西方面へ展開開始。  
 NPO：村上アーカイブスとの共働写真展開催を決める。4 月実施。  
 NPO 頼れるふるさとネット・瀬戸内クルージング間に追加支援協定締結。  
 24 年 1 月～4 月 NPO が尾道弓削航路の運航経費の一部を補填。月 60 万円。  
 航路連絡協：尾道港務所に上島町専用情報掲示板を購入設置。  
 町民有志：尾道航路存続を求める署名簿と陳情書を上村町長に提出。  
 航路連絡協：弓削行き片道無料切符を尾道市内の商店等に置いてもらう。  
 上村町長より署名提出者へ回答。陳情代表者を通じ航路事業者との話し合  
 いの場を持つよう協力を要請される。  
 陳情者代表：クルージングと会談。4 月 10 日、上島町との会談日程を調整  
 することを確認、相談のうえ町に伝える。  
 NPO：写真家村上宏治氏と協力・共催で弓削松原を舞台に、会期 2 週間の野  
 外写真展を開催。本土からの集客を図る。参観者 800 余名。  
 上島町、行政への支援陳情署名代表者、航路業者との協議（マスコミ排除）。  
 「相談がある側が連絡してくるのが筋だ」「勝手に止めたり走らせたりし  
 ている」「上島町に何をしろと言うのか」など上村町長の前向きに協議し  
 ない態度にクルージングは航路廃止を決意する。  
 連絡協：ホワイトドルフィン 3 号発行。4 月 10 日の会合内容を町民に報告。  
 クルージング：上島町へ航路全線廃止の意向を伝える。  
 上島町：クルージングへ 4 月 10 日の協議内容の確認を求める。求められ  
 た内容が事実と異なる為、業者は確認をせず。  
 クルージング：尾道弓削航路の廃止届出書を中国運輸局に提出。  
 上島町：クルージングへ 5 月 1 日の協議に参加するよう求める。  
 クルージング：航路廃止の意向を固めているゆえ 5 月 1 日の会合に応じな  
 いこと。また、売上げが出なければ事業からの撤退は経営の基本だが、赤  
 字の中で航路存続させてきたのは、ひとえに町民の方々の存続を願う声を受  
 けてのことである。航路存続を願っているのは上島町の町民の皆様であ  
 り、弊社が無理に存続を願っている訳ではありません。と文書で回答し、  
 上村町長の航路問題に対する勘違いを指摘。  
 署名者代表：代表者 2 名が上村町長と面会。同席者担当部署職員のみ。  
 席上町長は 4 月 27 日付けのクルージングからの指摘を読み、自分は勘違  
 いしていたので 4 月 10 日の会合での発言になったと 2 人には弁明。

【参考資料：4/10 会合音声記録・上村俊之後援会資料・上島町議会報・報道記事・筆者議会傍聴ほか】

てんつばや語るに落ちる真心の見えてかなしもけふも道説へ

嘘も言い続けられれば真になる？  
 今日まで上村町長は、この航  
 路問題に関し、議員の質問にも  
 知らぬ、業者から何も言ってい  
 ない、など事実とは異なる発言  
 や説明を、議会や自身の後援会  
 報でしてきた。だが、平成 23  
 年 1 月 19 日の生名橋開通に伴  
 う瀬戸内クルージングの航路縮  
 小承認に関し上村町長は「住民  
 の利便性が維持できるように協  
 議中。存続への話し合いを続け

い」とあたかも船会社と前向き  
 に協議中であるかのようにコメ  
 ントをしている。  
 転の巻 語るに落ちる  
 さて時系列の怒濤の平成 24  
 年 4 月 10 日の会合。町長はこ  
 うも述べている。  
 この会合を持ったのは上島町  
 長が業者と協議の場を持たない  
 と言われているからだ。  
 つまり航路の存続などどうで  
 もよく、協議をしたという事実

を作るために行っているのだと  
 述べているに等しい。  
 結の巻 尾道航路廃止  
 全ての経緯を知りながら、知  
 らぬと言ひ、言葉には畏を仕掛  
 け、言葉尻をとらえて揚げ足を  
 とる。そんな技には巧みでも、  
 町民の願ひにまっすぐ向き合わ  
 ぬ人物が「仁」を標榜する。  
 あえて積極的な行動をしない  
 姿勢は「不作為」と呼ぶ。だが  
 積極的にな不作為の道を選ぶの

らそれは作られた。どうであれ近  
 い将来航路は廃止される。  
 彼がなにゆえ並々ならぬ情熱  
 をもって現行航路のつぶしにか  
 かったのか真の理由はわからな  
 い。が、尾道航路の撤退に拍車  
 を入れたのは、4 月 10 日会合  
 での上村町長の言動にあること  
 だけは確かだ。後のことは、そ  
 のような町長を戴いた町民全て  
 が引き受けるしかない。  
 (文責・平山和昭)

<やよみ享映画研究会>無料  
 5月15日(火)夜7時から  
 どなたでも観きにどうぞ  
 「風とライオン」  
 ●1904年のモロッコ。米人未亡人とその子  
 供を誘拐したりフ族の酋長と、人質救出の米大  
 統領ルースベルトとの息づまる駆け引き。  
 ショーン・コネリー、キャンディス・バーゲン

18才の挑戦

安藤 萌生 茨城県



4月1日。エイプリルフル  
 なこの日、専門学校へ通うため  
 上京する娘を家族で見送った。  
 私の母は朝からしくしくと泣き、  
 いつものように庭仕事にきてい  
 た叔母達にはいつでも帰って来  
 なさいねと見送られ、行ってき  
 ま～す！と元気に大手を振る娘。  
 最後の荷物を詰め込んだ車に乗

り込み娘の住まいへと向かう。  
 手際よく荷物を降ろす。小さ  
 な部屋はあつという間に荷物で  
 いっぱいになり、またあつとい  
 う間に片付いていく。頼んでお  
 いた宅配物が届  
 き、テレビを調  
 整し、お風呂に  
 熱いお湯が出る  
 ことを確認した  
 ら壁にパネルを  
 貼って欲しいと娘。少し前に展  
 示したという写真だった。18歳  
 とは思えない渋い構図と色味。  
 もうちょっと明るくポップなの



ものはないかと訪ねると、こ  
 れが本色だと胸を張る娘。迷い  
 のない返事に少し笑ってしまった。  
 沖縄旅行の時に内緒で買っ  
 ておいたシーサーを渡す。欲し  
 かったのだと喜  
 ぶ娘。ぎゅうつ  
 と抱きしめてマ  
 ションを後にし  
 た。同僚達が  
 口を揃えてよく  
 手放せたねと驚く。自分達なら  
 反対すると。それもあると思う。  
 でも私には出来なかった。  
 自分の寂しい気持ちで子供を

支配してはいけない。沢山の人  
 に会って沢山経験し、人間、1  
 人では生きられない事実を、こ  
 の世はかけがえのないことを実  
 感してもらいたい。  
 私の娘同様、島を離れた人も  
 いると思います。離れてみて分  
 かることがあると思います。そ  
 れは出て行く者、留まる者双方  
 に感じられる貴重な時間。解き  
 放たれた心はまだ見ぬ島々へと  
 巡る。trip.

